

アオゲラの亜種分類基準の再検討と新たな分類基準の設定

○太田貴大（京都大学農学部森林生物学研究室）

アオゲラ(*Picus awokera*)は、本州・四国・九州および屋久島・種子島に分布する日本固有のキツツキである。日本鳥類目録においては、基亜種アオゲラ(*P.a.awokera*)、亜種カゴシマアオゲラ(*P.a.horii*)、亜種タネアオゲラ(*P.a.takatsukasae*)の3亜種が認められている。

記載論文による各亜種間の外部形態上の差異は相対的なものであり、簡潔にまとめると以下の表1のようになる。

表1 アオゲラの各亜種間の外部形態上差異

背中と胸の暗色度合い	暗い	タネ	⇔	カゴシマ	⇔	基亜種	明るい
外部形態計測値	小さい	タネ	⇔	カゴシマ	⇔	基亜種	大きい
腹部のハートマークの幅と濃さ	太く濃い	タネ	⇔	カゴシマ	⇔	基亜種	細く薄い

また、日本鳥類目録における各亜種の分布は、以下の表2のようになっている。

表2 日本鳥類目録におけるアオゲラ各亜種の分布

アオゲラ	本州
カゴシマアオゲラ	四国・九州（屋久島・種子島を除く）
タネアオゲラ	屋久島・種子島

しかし、実際にはこのような分布を示しているかは定かにはなっておらず、仮剥製を用いた予備調査でも、本州産の個体の方が、四国産のものよりも胸が暗色であるという例が確認された。これは、亜種分類基準が相対的であり、各亜種の認識が困難なためと考えられる。この状況を改善するために、亜種分類基準の再検討と分布の決定を行い、分類に役立つ新たな基準の設定を行う。

調査地を右図の黒点で示す。成鳥を捕獲し、以下の羽色・外部形態の記録と計測を行った。

①背および胸の羽色…カラーチャートによって記録を行った。

②外部形態計測値…鼻孔前端嘴長、嘴幅、嘴高、全嘴長、露出嘴峰長、全頭長、フシヨ長、自然翼長、最長風切羽長、中央尾羽長、最外尾羽長、全長、翼開長、体重の計測を行った。

③腹部ハートマーク…幅を計測した。また、黒色部と白色部とのコントラストをグレースケールを用いて指標化した。

発表では、各計測値および基準の亜種間での比較分析結果を示し、従来の分類基準の妥当性および新たな分類基準の有用性を議論したい。

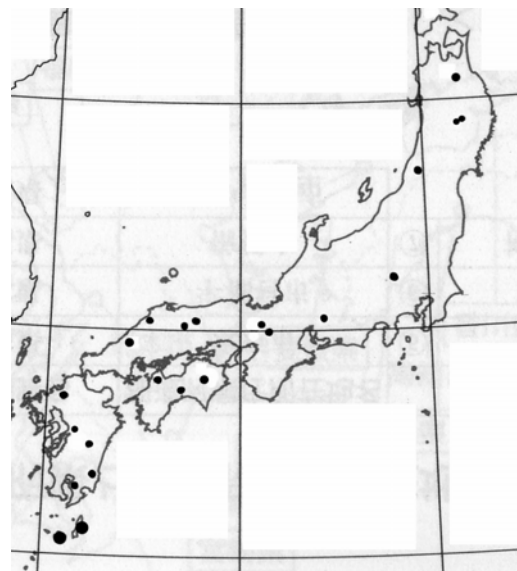


図 アオゲラ捕獲地